教科名	音楽科	校　種	高等学校

科　目　の　配　当				
学年	科目名	必・選	単位	授業展開など，授業の形態
１年	音楽Ⅰ	必	1	
２年	音楽Ⅰ	必	1	
３年	音楽Ⅱ	選	2	

科目名（教科名）	音楽Ⅰ　（　音楽科　）				
学年	1	単位数	1	必修・選択・展開	必修

■ 授 業 の 目 的

1．曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
2．自己のイメージをもって音楽 表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。
3．主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。日本の伝統文化について歴史的・文化的な理解を深め、国際交流に生かせる力を育む。

■ 授 業 計 画

学 期	授 業 の 項 目	内 容
1学期	○表現・歌唱 ○鑑賞	・腹式呼吸の確立と視唱力の向上 ・声域の拡張と、曲種に応じた発声工夫 ・楽曲の歴史的背景とともに行う代表的作曲家の作品鑑賞 ・郷土の伝統音楽と、諸外国の音楽の役割
2学期	○表現・創作 （ミュージカル） ○表現・器楽（弦楽器） ○宗教音楽（聖歌）	・様々な表現形態による歌唱の特徴を活かした表現の工夫 ・歌詞の内容や曲想を理解した豊かな表現の工夫 ・基本的奏法の習得 ・声部の役割を感じ取りながらのアンサンブルと表現力の向上 ・聖歌や宗教音楽を通じて祈りの心を育む
3学期	○表現・歌唱（日本・外国の歌） ○アンサンブル （ボディ・パーカッション）	・原語の理解と、外国語科との連携による的確な発音の修得 ・リズムの特徴を活かした表現の工夫とアンサンブル ・打楽器を用いた表現の工夫

評価の観点	知識・技能（30%）	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深め、創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽創作などで表している	小テスト・実技テスト・レポート
	思考・判断・表現（40%）	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている	レポート・プレゼン発表・実技テスト
	主体的に学習に取り組む態度（30%）	音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている	授業態度・課題提出

評価の方法と割合	●評価方法：定期試験（実技試験）と発表（プレゼン・レポート）における成績状況と平常点（提出物等）により各学期の成績を算出する。 ●割合　　：定期試験：７０％　　平常点：３０％
教科書・副教材等	●教科書：　「高校生の音楽１」教育芸術社 ●副教材：　「聖歌集」

科目名（教科名）	音楽Ⅰ　（　音楽科　）				
学年	2	単位数	1	必修・選択・展開	必修

■ 授 業 の 目 的

1．音楽の諸活動を通して生涯にわたり音楽を愛好する心情と音楽文化を尊重する態度を育てるとともに、感性を磨き、個性豊かな音楽の能力を高める。
2．主体的な鑑賞能力を伸ばし、個性を生かした創造的な活動で、音楽の表現力を一層高める。
3．日本の伝統文化を継承し、創造していく心を養い、国際交流に生かせる力を育てる。

■ 授 業 計 画

学 期	授 業 の 項 目	内 容
1学期	○表現・歌唱 ○器楽（弦楽器）	・発声のメカニズムを学び、腹式呼吸の修得と応用 ・声域の拡張・曲種に応じた発声の修得 ・基本奏法の習得 ・声部の役割を感じ取りながらのアンサンブルと表現力の向上
2学期	○表現・歌唱（伊語・独語・英語） ○器楽（邦楽） ○宗教音楽（聖歌）	・原語の理解と個性豊かな自己表現の追求 ・旋律・ハーモニーを知覚し、伴奏楽器の役割を感じとり、協力し合いながらのアンサンブル ・邦楽の旋律・様々な演奏法や音色を学習する ・我が国や郷土の伝統音楽に対する理解を基盤として、国際社会に生きる自覚の育成 ・聖歌・宗教音楽を通じ祈りの心を養う
3学期	○表現・創作・劇音楽 ○鑑賞	・総合芸術であるオペラ・ミュージカルより音楽と他の芸術との関わりを理解する ・歴史的背景とともに、代表的作曲家の作品鑑賞

評価の観点			
	知識・技能（30%）	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深め、創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽創作などで表している	小テスト・実技テスト・レポート
	思考・判断・表現（40%）	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている	レポート・プレゼン発表・実技テスト
	主体的に学習に取り組む態度（30%）	音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている	授業態度・課題提出

評価の方法と割合	●評価方法：定期試験（実技試験）と発表（プレゼン・レポート）における成績状況と平常点（提出物等）により各学期の成績を算出する。 ●割合　　：定期試験：７０％　　平常点：３０％
教科書・副教材等	●教科書：　「新高校生の音楽１」音楽之友社 ●副教材：　「聖歌集」

科目名（教科名）	音楽Ⅱ　　（　音楽科　）				
学年	3	単位数	2	必修・選択・展開	選択

■ 授 業 の 目 的

1．音楽の諸活動を通して生涯にわたり音楽を愛好する心情と音楽文化を尊重する態度を育てるとともに、感性を磨き、個性豊かな音楽の能力を高める。
2．個性豊かな表現能力と、高い表現技術を身につけ、主体的な鑑賞能力を伸ばす。
3．日本の伝統文化を継承し、創造していく心を養い、国際交流に生かせる力を育てる。

■ 授 業 計 画

学 期	授 業 の 項 目	内 容
1学期	○表現・歌唱	・腹式呼吸の確立と応用、声域の拡張、曲種に応じた発声の体感 ・歌詞の内容や曲想を理解した豊かな表現の工夫
	○器楽（邦楽：箏）	・邦楽の旋律・様々な演奏法や音色を学習する ・我が国や郷土の伝統音楽に対する理解を基盤として、国際社会に生きる自覚の育成
2学期	○表現・独唱重唱等のアンサンブル（イタリア語・ドイツ語・英語）	・原語の理解と個性豊かな自己表現の追求
	○表現・（合唱　他）	・混声合唱における豊かな和声感を追求し、楽曲の情景や背景の音楽的表現の工夫 ・旋律・ハーモニーを知覚し、伴奏楽器の役割を感じとり、協力し合いながらのアンサンブル
	○鑑賞	・音楽と舞踏・演劇・美術など他の芸術や文化とのかかわりを理解する
3学期	○宗教音楽（聖歌）	・聖歌・宗教音楽を通じて祈りの心を育て、社会における音楽（宗教音楽）の役割を考える

評価の観点	知識・技能（30%）	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深め、創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽創作などで表している	小テスト・実技テスト・レポート
	思考・判断・表現（40%）	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている	レポート・プレゼン発表・実技テスト
	主体的に学習に取り組む態度（30%）	音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている	授業態度・課題提出

評価の方法と割合	●評価方法：定期試験（実技試験）と発表（プレゼン・レポート）における成績状況と平常点（提出物等）により各学期の成績を算出する。 ●割合　　：定期試験：７０％　　平常点：３０％
教科書・副教材等	●教科書：　「新高校生の音楽２」音楽之友社 ●副教材：　「聖歌集」

教科名	書道科	校　種	高等学校

科　目　の　配　当				
学年	科目名	必・選	単位	授業展開など，授業の形態
１年				
２年	書道Ⅰ	選	２	
３年	書道Ⅱ	選	２	

科目名（教科名）	書道Ⅰ（書道）				
学年	２	単位数	２	必修・選択・展開	選　択

目的	
	１．書道の幅広い活動を通して、書を愛好する心を育て、感性を豊かにする。 ２．書の能力を高め、表現と鑑賞の基本的な能力を伸ばす。 ３．個性を伸ばし、世界に向けたしなやかな美の心を育てる。

学　期	授　業　の　項　目	内　容
１学期	○はじめに ○漢字の書に親しもう ○篆刻 ○硬筆	・書写から書道へ ・姿勢・執筆法 ・用具・用材（文房四宝） ・書体の移り変わり ・楷書の古典　【初唐の三大家】　【日本の楷書】 ・名前の印を彫る。青田石 ・ペン習字 ・全国硬筆作品展覧会出品
２学期	○漢字の書に親しもう ○書き初め	・行書の古典　【蘭亭序】【日本の行書】 ・篆書の古典 ・隷書の古典 ・草書の古典 ・漢字の書の鑑賞　学院祭書道展　外部書道展への出品と鑑賞 ・全国書きぞめ作品展覧会出品
３学期	○仮名の書に親しもう ○生活の中の書	・仮名の成立 ・仮名の基本線 ・平仮名…いろは歌 ・変体仮名 ・連綿 ・年賀状・挨拶文などの書き方・マナー

評価の観点			
	【知識・技能】（３０%）	日常生活の書の効用、文字及び書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっているか。書の基礎的な能力を生かし、効果的な表現技術を身につけているか。	・学習プリント ・練習作品 ・展覧会見学レポート
	【思考・判断力・表現】（４０%）	書の美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫しているか。	・創作作品 ・硬筆・書き初め作品展覧会出品
	【主体的に学習に取り組む態度】（３０%）	書の伝統と文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしているか。学習活動への参加状況や態度。硬筆練習帳の内容。	・学習プリント ・授業態度・課題提出 ・硬筆練習帳の内容

評価の方法と割合	
	● 評価方法　：　作品制作点と平常点（硬筆帳・展覧会レポート等）により、各学期の成績を算出する。 ● 割合　　：　作品制作点７０％・平常点３０％

教科書・副教材等	
	● 教科書　　：書Ⅰ（光村図書） ● 副教材　　：ペン字練習帳（新星出版社）

科目名（教科名）	書道Ⅱ（書道）				
学年	3	単位数	2	必修・選択・展開	選　択

目的	
	1.　書道の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情と、書の文化や伝統を尊重する態度を育てる。 2.　実用書の技術とマナーを身につける。

学　期	授　業　の　項　目	内　容
1学期	○多様な書の美 ○条幅【半切】作品の制作 ○刻字　表札の制作 ○硬筆	・書道Ⅰから書道Ⅱへ ・多様な書の表現と鑑賞 ・篆書での創作 ・隷書での創作 ・草書での創作 ・行書での創作 ・楷書での創作 ・表札文字の草稿から、セラミックボードへの刻字・仕上げ ・全国硬筆作品展覧会出品
2学期	○仮名書の美の多様性 ○絵巻物創作 ○賞状揮毫	・仮名の発生から完成へ ・臨書から創作へ ・仮名の書の鑑賞 　学院祭書道展・外部書道展出品と鑑賞 ・伝えたいことを工夫して残す ・賞状の書式と文字
3学期	○生活の中の書	・実用書（硬筆・筆ペン）

評価の観点			
	【知識・技能】（３０%）	書の伝統と文化や、書と生活や諸文化との関わりについて理解しているか。自己の感興や意図を実現するため構想を具現化し、主体的に個性的・創造的な表現ができているか。	・学習プリント ・練習作品 ・展覧会見学レポート
	【思考・判断力・表現】（４０%）	確かな書の表現技法を習得し、それを生かしてより自由で個性的な書の表現を工夫しているか。	・創作作品 ・硬筆作品展覧会出品
	【主体的に学習に取り組む態度】（３０%）	生涯にわたり書を愛好する心情や、書の伝統と文化を尊重する態度を身につけているか。学習活動への参加状況や態度。	・学習プリント ・授業態度・課題提出 ・筆ペン練習帳の内容。

評価の方法と割合	● 評価方法　：　作品制作点と平常点（硬筆帳・展覧会レポート等）により、各学期の成績を算出する。 ● 割合　　：　作品制作点７０％・平常点３０％
教科書・副教材等	● 教科書　：　書Ⅱ（光村図書） ● 副教材　：　筆ペン字練習帳（新星出版社）

教科名	美術	校　種	高等学校

科　目　の　配　当				
学年	科目名	必・選	単位	授業展開など，授業の形態
1年				
２年	美術Ⅰ	選	2	
３年	美術Ⅱ	選	2	

科目名（教科名）	美　術　Ⅰ　　（　美術科　）				
学年	2	単位数	2	必修・選択・展開	必 修

目的

1. 油絵の技法や道具・材料について知る。また西洋絵画の基本的なものの見方について学ぶ。
2. 縄文土器から縄文人の美意識を理解し、その精神を反映させた土器制作に挑む。
3. 長い時間をかけて１つの作品に取り組むことで、見通しや準備といった計画力・調整力を養えるようにする。

学　期	授　業　の　項　目	内　容
1学期	・描画材と表現（絵の具を知ろう） 教科書PP14～15 ・風景画（一本の樹） 教科書PP18～19 ＜鑑賞＞	・近・中・遠景を意識した絵画を油絵で制作する。 ヴァルール、パースペクティヴといった西洋絵画の基礎的な考え方に基づき、空間感・奥行き感のある平面作品を目指す。最終的には、空間内に存在するモチーフを描き分けることで、その場に存在する「空気」を描くことを目指す。 ・年間を通して、美術展等を訪問し、レポートする。
2学期	・思考に形を与える1・2 教科書PP06～09 ＜鑑賞＞	・陶土塑像による土器を制作する。 縄文土器の表現的特徴やその精神性を知り、自らの作品でそれらを具現化する。単に工芸として土器を作るということではなく、「縄文の精神」そのものを彫塑することを目指す。 ・年間を通して、美術展等を訪問し、レポートする。
3学期	・描画材と表現（絵の具を知ろう） 教科書PP14～15 ・人物画（自分を描く、愛する人を描く） 教科書PP22～23 ＜鑑賞＞	・油絵で人物の胸像を描く。 油絵の下塗りや質感を生かした描写を目指す。モデルの表面的な似顔絵に終始するのではなく、色彩でモデルを造形する意識を持って制作にあたる。 ・年間を通して、美術展等を訪問し、レポートする。

評価の観点			
	【知識・技能】（30%）	造形的な特徴などを基に，全体のイメージや作風，様式などで捉えることを理解している。	・課題作品に対するエスキース、コンセプト、下図、プラン等
	【思考・判断力・表現】（40%）	表現形式の特性を生かし，形体や色彩，構成などについて考え，創造的な表現の構想を練って いる。	・課題作品を具現化する際の準備、工夫、試行錯誤、臨機応変等
	【主体的に学習に取り組む態度】（30%）	主体的に絵画・彫刻等の表現の創造活動に取り組もうとしている。	・制作態度・課題作品の提出

評価の方法と割合

●評価方法：　作品点、制作点、平常点を総合して成績を算出する。
●割合　　：　制作点30%、作品点40%、平常点30%
ただし、作品提出がない場合は作品点、制作点を0点とする。

教科書・副教材等

●教科書：　高校美術Ⅱ（日本文教出版）

科目名（教科名）	美　術　Ⅱ　　（　美術科　）				
学年	3	単位数	2	必修・選択・展開	必 修

目的	
	1. 油絵の技法や道具・材料について知る。また西洋絵画の基本的なものの見方について学ぶ。 2. 縄文土器から縄文人の美意識を理解し、その精神を反映させた土器制作に挑む。 3. 長い時間をかけて１つの作品に取り組むことで、見通しや準備といった計画力・調整力を養えるようにする。

学　期	授　業　の　項　目	内　容
1学期	・グラフィックデザイン （希望をかたちに） 教科書PP44～45 ＜鑑賞＞	・「孔版画」を制作する。 孔版画による、画筆描写では表現できない画面を意識する。 孔版画特有のマチエール等を意識的に用いることによって、変化に富んだ作品を目指す。 ・年間を通して、美術展等を訪問し、レポートする。
2学期	・機能とデザイン （機能を考える） 教科書PP46～47 ・絵画の主題 （美術とともに生きる） 教科書PP08～09 ・主題と表現 （クリスティーナの世界） 教科書PP20～21 ＜鑑賞＞	・日本の伝統技法や美意識によって生まれた、工芸の美を味わう。 陶土による「抹茶碗」を手びねりで制作する。成形後、乾燥を経て、素焼き、施釉、本焼きする。 ・自画像を制作する。 高校3年間で培った美術的感性・技術を総動員し、「現在の自分」を象徴的に表現する。 ・年間を通して、美術展等を訪問し、レポートする。
3学期	美術にかかわるということ	・２学期に制作した抹茶椀で、茶会をし、１年を締めくくる。

評価の観点			
	【知識・技能】（30%）	造形的な特徴などを基に，全体のイメージや作風，様式などで捉えることを理解している。	・課題作品に対するエスキース、コンセプト、下図、プラン等
	【思考・判断力・表現】（40%）	表現形式の特性を生かし，形体や色彩，構成などについて考え，創造的な表現の構想を練って いる。	・課題作品を具現化する際の準備、工夫、試行錯誤、臨機応変等
	【主体的に学習に取り組む態度】（30%）	主体的に絵画・彫刻等の表現の創造活動に取り組もうとしている。	・制作態度 ・課題作品の提出

評価の方法と割合	●評価方法：　作品点、制作点、平常点を総合して成績を算出する。 ●割合　　：　制作点30%、作品点40%、平常点30% ただし、作品提出がない場合は作品点、制作点を0点とする。
教科書・副教材等	●教科書：　高校美術Ⅱ（日本文教出版）